津山高校
第11号
県南クラブ
2005年5月25日発行
津山高校同窓会
岡山県南支部会報

県南支部総会
7月10日
倉敷チボリ公園で開催

入園無料

津山高校同窓会県南支部の平成17年度総会を7月10日（日）午後零時半から倉敷市の倉敷チボリ公園・アンデルセンホールで開きます。「夏のチボリ」で懐かしい同窓生同士の親睦を深めましょう!!

午前10時半から公園入り口で園内マップなどをお渡しします。11時半からの同ホール2階での受け付け開始まで十分な時間を取っています。皆さまお誘いの上、園内散策などを楽しまれてはいかがでしょう。

終了後は午後9時の閉園まで夜のチボリも楽しめます。

会費は8,000円です。6月15日までに同封のはがきで出欠のご返事をお願いします。

ぜひご参加を！

写真はいずれも平成15年度総会の様子

随想

創立110周年を迎えて ～母校の近況

津山高校校長　甲田　春男

津山高校同窓会県南支部の同窓生の皆様が各界各層でご活躍になり、たくさんの同好会で活動されながら親交を深められていることは、誠に喜ばしいことでございます。津山高校に対しましては、物心両面に亘る絶大なご支援をいただいておりますことを、大変ありがたく思っております。心より御礼申し上げます。

皆様の母校であります津山高校では、平成７年から進めて参りました校舎全面改築も、16年度の新武道場の完成をもって全てが完了いたしました。同窓の先輩方の要望もあって国重要文化財として残した旧本館と十六夜山古墳が歴史と伝統を語りかける一方で、施設設備の整った４階建てのモダンで立派な校舎がそびえ、新しい体育館と武道場も備えた素晴らしい教育環境が整いました。この上は、この素晴らしい環境に負けないほどの充実した高校の中身に磨きをかけることであります。教師と生徒は、事ある毎に、このことを誓い合い、充実に向けての取り組みを進めています。

経済界と同様に、教育を取り巻く状況には厳しいものがあります。県北の過疎化と少子化による生徒数の減少で高等学校の再編統合が進められ、美作地区では大原高校、日本原高校、福渡高校、江見商業高校、備作高校、至道高校が姿を消します。また、真庭市内の４校も２校に統合される予定です。学区も美作一円が１つとなり、優秀な生徒が津山高校に集まっていますが、以前からの５％入学も必要が無くなり、クラス数も減って、普通科・理数科合わせて８クラスになっています。また、「ゆとり教育」ということで「学校週５日制」が実施され、学習指導要領により「総合的な学習の時間」が新設され、小・中学校では授業内容が大幅にカットされています。そして「学力低下」が叫ばれている今、私たちは何をなすべきかを自覚し、再確認しているところです。

当然のことながら、従来から変わらず地域からの期待には大きなものがあり、津山高校の果たさなければならない責務は重大です。「東京大学へ」に象徴される大学進学、「甲子園へ」に象徴される部活動、「地域の子供たちの範たれ」という人格・品格の問題。この期待に応えるべく、教師、生徒が意識改革をし、土曜日も学校を開放して講座を開講したり、部活動などにも励んでいます。平成16年度は県下で話題にされるほどの進学実績を残してくれて、成果が上がりつつあると、教職員一同は意を強くしています。

歴史を重ねて平成17年度で創立以来110周年を迎えることになり、11月11日には記念式を執り行います。先輩諸兄におかれましては、帰省されます機会には是非母校にお立ち寄りいただき、様子を見ていただくとともに、後輩たちを励ましてほしいと存じます。

どうぞ、皆様、ご健勝にてますますのご活躍をお願いいたします。

（こうだ・はるお、昭和40年卒）

旧体育館跡地に今年３月に完成した「新武道場」

随想

延ばしたい“健康寿命”

支部長　産賀　敏彦

津山高校同窓会岡山県南支部会員の皆様　ますます御清栄のことと存じます。

今年は第60回国民体育大会が、晴れの国岡山国体として、岡山県で開催されます。

津山市では柔道、剣道、ハンドボール、軟式野球の４競技が、津山東体育館、津山総合体育館、津山工業高校体育館、津山市勝北総合スポーツ公園野球場・加茂町スポーツセンター総合グラウンドをそれぞれの会場として10月22日から27日にかけて開催されることになっております。去る４月22日に津山市実行委員会総会が開かれまして、大会開催の機運が盛り上がりつつあるのを実感いたしました。

その総会に出席した機会に、久方ぶりに鶴山に登りました。花見の季節の終わった午後３時すぎの城址にはほとんど人影もなく、出始めた桜の若葉が全山を包んでおりました。わずかに彩りを添えていたのは、ところどころにある満開の八重桜のみで、壮大な城址は静寂なたたずまいの中に、凛とした底力を秘めているように感じられました。最上段の栗積櫓跡から津山高校を眺めながら津山高校発展の歴史を思い、400年前に城造り、国造りに没頭された森忠正公の偉業を想いながら、静かにゆっくりと感慨にふけるひと時を過ごすことができました。

日本人の体位向上などを目的に開催されてきた国体ですが、平均寿命世界一の国民健康度を達成し、競技施設もかなり普及して、当初の目的はほぼ達成されたように思われます。２順目に入った現在では、各種目の競技力向上に重点が置かれているようです。しかしながら、競技は選手のみが競技するものではなく、選手を指導し、支え、応援するという周囲の人々の協力、社会の協力が大切であることはいつの日も変わらないものと思います。

現在、日本の小学生・中学生などの学力低下が叫ばれております。国際比較がないので見逃されていますが、大学生でも同じ現象が起こっているようです。このことは社会全体の智力低下につながりますので心しなければなりませんが、この学力向上に限らず青少年の健全育成についても、社会全般の協力が必要であろうと思います。

人の最大寿命は120歳ぐらいと考えられておりますが、この限界一杯に健康寿命を延ばしたいものです。日本人の平均寿命が世界一であるのは、この目的に向けての社会全体の努力と協力の結果です。県南支部同窓の皆さんが、様々な同好会を組織して活躍しておられますのも、健康寿命を延ばす上で非常に大きな力となっております。

会員皆様のますますの御健勝、御活躍、御発展を心からお祈りいたします。同時に、母校発展と県南支部発展のためにも今後とも変わらぬ御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（うぶか・としひこ、昭和28年卒。岡山県剣道連盟会長）

放射性医薬品の研究を続ける

安東　醇 さん

「放射性医薬品で今、世界で広く使われているのは米国など海外のもの。日本はまだ力がない。これからの研究で何とか目鼻をつけることができれば」と話す。金沢大学を定年退官した平成13年に岡山へ帰郷してからも、岡山大学医学部客員研究員、香川大学客員教授とし両大学の研究室に通い、実験を繰り返す日々を続けている。

ラジオアイソトープ（放射性同位元素、ＲＩ）に出合ったのは昭和33年、金沢大学薬学部１年の時。クラスコンパの席で担任の教授に岡山出身と自己紹介したところ、「ドクダミが原爆症治療に効果があると岡山の人が言っている」という話が返ってきた。津山市田邑の実家近くでも広島で原爆に遭った人があり、放射線や放射能に関心を持っていただけに興味を覚えた。

“ドクダミ効果”説を唱えていたのは津山中学博物学教師で、生徒から“山桜”のあだ名で親しまれていた本澤一江先生（故人）であることを知る。津山に帰郷した際、先生宅を尋ね、当時治療に当たった医師を紹介してもらい、会って話を聞いた。安東さんは津山高校昭和29年卒で本澤先生に習ってはいないが、実兄は先生の授業を受けている。

その後、大学でラットを使いドクダミの効果を調べる簡単な実験をした。だが、期待したような結果は得られなかった。それからドクダミ研究の機会はない。40年以上経た今でも気にかかっているという。

この一方、大学の一般教養・化学の授業で、ＲＩのトレーサー（ある物質の移動、変化を追跡するため目印として添加される物質）利用は薬学、生物化学の研究には欠かせないと感じる。ＲＩの医学利用と放射線障害を研究していた医学部助手の研究室で、少しずつ実験を重ねていった。

就職は薬学分野でＲＩ研究のできる企業を希望し、放射性医薬品の研究開発を進めていた第一製薬の関連会社・第一化学薬品に昭和37年入社。ＲＩを試薬や医薬品として使い、医学、薬学に活用する研究を続けた。

昭和30年代以降、放射線医学は大きな発展を遂げ、高エネルギーエックス線によるがん治療、放射性医薬品を使った病気の診断、治療が行われるようになった。金沢大学でも医学部付属診療エックス線技師学校（２年課程）に専攻科（１年課程）を設け、より高度な専門教育を進めることに。同科が新設された昭和42年、恩師から「帰ってこないか」の誘いがかかる。専任講師として母校へ戻り、大学での研究生活が始まった。

医学・医療の高度化、専門化が進むにつれ、医療技術者のレベルアップが要求されるようになった。それまで各種学校だった診療エックス線技師学校、看護学校などの医学部付属学校をまとめ、医療技術短期大学部に昇格させる構想が生まれる。金沢大学でも昭和47年に国立大学では全国３番目の医療技術短期大学部（３年制）が設置され、平成７年の医学部保健学科（４年制）への改組、大学院の開設につながっていく。

安東さんは短期大学部長、保健学科長などの要職を務め、人材の育成と設備の拡充に力を入れるとともに、学内のアイソトープ総合センターの設立にも尽力した。「医療技術者教育や保健医療科学はものすごい勢いで伸びた。その時その時が“時代の波”に乗った感じだった」と回顧する。

学務に追われる一方、放射性医薬品の研究も続けた。同医薬品は微量のＲＩを含んだ薬。これを患者に投与し、ＲＩを病気の部位へ特異的に集め、それらのＲＩから放出される放射線量を調べ、放射性物質の分布像を求めることで病状、器官の機能を診断する。

安東さんはラットやマウスを使い、放射性無機イオンの中にがんの部位に多く取り込まれるものがあるかどうか調べた。これらの動物に放射性金属化合物を静脈注射し、がんの部位だけでなく正常な臓器組織にも放射性物質が時間の経過とともにどのように取り込まれるか、血液や尿での数値を含むデータを１つ１つ取っていく細かな作業を積み重ねた。

一連の研究が認められ、昭和48年度の日本核医学会賞を受賞。医師以外では初めての受賞者となる。しかし、「研究に十分な時間を割けなかった」と振り返る。もっと時間があれば違う成果を上げられたのではないか、という思いもある。

がん診断薬開発に熱意注ぐ

教え子に囲まれる安東さん。前列右から２番目は逸子夫人＝平成５年、金沢大学の研究室で

現在は岡山大に週４日、香川大へ週１日ずつ通い、SPECT（単一光子放射型断層撮影装置）用とPET（陽電子放出断層撮影装置）用の放射性医薬品の開発に励む。趣味は「ＲＩの実験」と言い切る。研究室では金沢大学時代から夫人の逸子さんが“助手”とし、ずっとサポートしている。長年の労苦を共にする夫人への感謝の気持ちは強い。

がん診断技術は飛躍的な発達を続けている。現在、陽電子を放出する放射性医薬品で病巣を画像化することで微小ながんも発見できるPET、これにエックス線ＣＴを組み合わせたPET・ＣＴ診断が脚光を浴びるなど、新しい医療技術の開発が目覚しい。これを支えるのが放射性医薬品だ。

「臨床実験までいった薬もあるが、まだ広く使ってもらえるようなものは出来ていない。これまでの研究で無機化合物では効果的なものがないことが分かった。有機化合物に期待している。未知の領域が多いがなんとかしたい。お世話になっている大学のお役にたてれば」と張り切る。

会員近況

日展で2回目の特選を受賞した

石田　宗之 さん

昨年秋の第36回日展で40歳代前半の若さで見事２回目の特選に輝いた。

今年４月の第91回光風会展では、同会中興の祖と言われる辻永氏の業績をたたえ、会員に与えられる最高賞「辻永記念賞」を受賞した。洋画界若手のホープ。将来岡山を代表する洋画家になることを期待されている。全国的にも注目を浴びる“旬の人”である。

日展特選の受賞作は「受其環珞分作二分」。曼荼羅的な雰囲気が漂う空間に首飾りを持った女性が横たわる精神世界を描いた。題名は観音経の一節から取っている。一見難解な感じだが、何かしら心が安らいでくる。じっと眺めていたい思いにかられる絵だ。

「イライラしたり、気分が嫌になる絵は描きたくない。ほんわかと好印象に残るものを描きたい。曼荼羅的だが、いかにも宗教的なものにはしたくない。仏教的なものを出さないようにしている」と石田さん。

ここ10年以上、女性、蓮、宝珠をモチーフに、同じ観音経の一節から題名を得た「云何遊此娑婆世界」シリーズに取り組む。独自の創作世界を深め、平成14年の日展で初めて特選を受賞している。

昨年の出品作は「（女性が）ずっと球ばかり持っているので、持ち物を変えてみた」。題名も変え、２度目の栄誉を２年ぶりに手にした。

絵を本格的に描き始めたのは津山高校３年の時から。美術関係に進学しようと１年時の担任で美術部顧問、かつて津高美術部の“三羽がらす（小森俊顕、坂手得二、福島隆壽の３氏。いずれも光風会会員）”と呼ばれていた大先輩の１人、小森先生（平成９年逝去）に進路を相談。先生が岡山大学教育学部特別教科（美術・工芸）教員養成課程、いわゆる“特美”の出身だったため、その流れで岡大・特美の受験を決め、試験科目の石膏デッサンに取り組んだのがきっかけとなる。

津山市出身で、津高の第30期（昭和54年卒業）。高校時代は「受験のための生活を送っていた感じ。あっという間の３年間で、楽しい思い出がほとんどない。授業では世界史・坂手優先生の“脱線話”が面白く、印象に残っている」という。

昨年秋の日展特選作品「受其環珞分作二分」

岡大・特美に入学してからは岡山県美術展覧会（県展）と小森先生の縁で光風会展に応募、在学中にそれぞれ初入選を果たす。

仏教の世界に興味を惹かれ始めたのは大学卒業時の昭和58年。各地の美術館で弘法大師に関する展覧会が開かれ、数多くの曼荼羅に接するうち「引き込まれるもの」を感じ、石田さんの絵の題材に入るようになった。

大学生や社会人になってからも小森先生の所へ遊びに行っていた。いろいろと悩みを抱えた時、相談に乗ってくれたのも先生だった。仏教に造詣が深い恩師と話をするうち、東洋思想にひかれていく。

30歳のころから曼荼羅的な世界を追求し始め、観音経を基にした心象風景を描いてきている。平成８年の光風会展で会友賞、県展では最優秀の山陽新聞社大賞。翌年には岡山県芸術奨励賞、11年光風会展で安田火災美術財団奨励賞を受賞。洋画家としての地歩を着実に固めてきた。

丁寧な筆致、デッサン力の確かさには定評がある。光風会岡山支部代表の福島隆壽さんは「岡大時代、地道に古典を勉強したのが今に生きている。レンブラントやルーベンスなどの作品をこつこつ模写しながら描画表現を学んだのが大きい」と話す。

岡山市内に住み、デザイン会社にグラフィックデザイナーとして勤める傍ら、土、日曜日を中心に絵を描く。追い込み時は朝４時に起き、筆を握る。仏像を見るのが好きで、奈良や京都にもよく出掛ける。

絵画人口が減っているのを懸念する。若い人に絵に興味を持ってもらうことも目的に、自身のホームページ（http://www013.upp.so-net.ne.jp/ishida-website/）を開設。何気ない所に隠しボタンを配するなど、遊び心を持ったページだ。「絵を描きたいという人が増え、光風会に入ってもらえばと思っている」。

恩師の故小森俊顕先生（左）と納まった最後の思い出深い写真。右側は福島隆壽氏

来年１月に４回目の個展を３年ぶり岡山高島屋（岡山市）で開く予定。今はその準備に追われる。

「絵の世界の追求には一定の満足感はあるが、これで終わりというものがない」。これからの創作活動に意欲を燃やす。

岡山洋画界の若手ホープ

同好会でご一緒に

歩こう会

"和気富士"を楽しんだ「歩こう会」メンバー

年2、3回、岡山県内を中心に旧跡などの散策を楽しんでいます。歩く距離は長くないため、健脚でない人でも十分大丈夫。夫婦での参加者が多いのも特徴です。歩いた後は近くの温泉につかり、地元の産直市にも立ち寄り、新鮮野菜などを買って帰るのが恒例です。

4月17日には約20人が参加し、和気町の"和気富士"、湯殿谷温泉に出掛けました。

■連絡先は、蜂谷弘紀さん（☎086－284－2583）

十六夜絵画クラブ

例会を毎月第4土曜日に岡山市の岡西公民館で開いています。季節によっては野外スケッチに出掛けます。

年1回は県外へスケッチ旅行に出掛けています。

5月28、29日は長野県美ヶ原、蓼科高原に行きます。

■連絡先は、黒瀬正義さん（☎086－225－8607）

いざよいゴルフクラブ

岡山県内のゴルフ場で年5回程度、腕を競い合っています。

次回例会は6月27日（月）グレート岡山G.Cで開催します。

■参加希望者は、富岡謙二さん（☎086－277－7864）まで。

最近の成績は以下の通りです。

- **第36回（たけべの森）**
  ①米井澄近　②石原茂光　③佐藤幸典
- **第37回（岡山北ゴルフ）**
  ①斎藤和子　②米井澄近　③原田民子
- **第38回（山陽ゴルフ）**
  ①渡辺　格　②難波　哮　③原田民子

カラオケ同好会

例会を奇数月の最終日曜日に岡山市内で開いています。

■連絡先は、小野孝志さん（☎086－284－0045）

釣り同好会

瀬戸内海での船釣りを年2回、楽しんでいます。船はトイレ付きなので女性の方も安心して参加できます。

5月29日には小豆島周辺での釣行を楽しむ予定です。

■連絡先は、小森章二郎さん（☎086－270－2600）
中山頼和さん（☎086－282－4199）

Mini ミニニュース

支部最高齢者の黒田さんご逝去

県南支部の最高齢者で津山高女を大正8年卒業の14期生、黒田和子さん（岡山市御津金川、御津町名誉町民）が2月25日、102歳で亡くなられました。

黒田さんは昭和26年から旧金川町議、28年から御津町議を20年間、同29年から30年間にわたり県愛育委員連合会の初代会長を務められました。

ご冥福をお祈りします。

市長賞をダブル受賞 ―岡山市民文芸祭で高山さん

昨年秋の第36回岡山市民文芸祭で、昭和42年卒の高山山城子（秋津）さんが現代詩と随筆部門で最優秀の市長賞をダブル受賞されました。高山さんは同文芸祭で上位入賞の常連。市長賞のダブル受賞は実に3回目となります。

現代詩の受賞作「紙を漉く」は反古紙を漉き返す作業の中に人の定めを折り重ねた完成度の高い作品。「新しい紙を漉くのではなく、再生紙にしたことで過ぎ去った歴史をうまく溶け込ませることができた」と"会心作"に満足な表情。

随筆の「弁慶の後ろ姿」は小学校の下校時に出合った大きな犬"弁慶"との触れあい、別れを豊かな表現力で構成されています。

3回目のダブル受賞に「何度いただいてもうれしい。今年も頑張りたい」と意欲満々です。

県南支部の最新ニュースはホームページでどうぞ

http://www1.harenet.ne.jp/~izayoi/

会費納入のお願い

- 県南支部の活動は、会費（年額1,000円）によって支えられています。
- 会費は会報「県南クラブ」の印刷、郵送費、会員の親睦などに使われます。
- 納入は任意です。趣旨に賛同いただける方は同封の郵便振り込み用紙で納入をお願いいたします。（支部総会に出席される方は当日会場で納入をお願いいたします）

津山高校同窓会岡山県南支部会報
「県南クラブ」第11号
2005年5月25日発行
発行人　藤賀敏彦　　編集人　片山淑雄
発行所　津山高校同窓会岡山県南支部
〒700-0816
岡山市富田町2-12-16 センチュリー富田602号
ソーケン・プランニング内
TEL. 086-225-8607 FAX. 086-225-8600
E-mail　soken@mxt.mesh.ne.jp
URL　http://www1.harenet.ne.jp/~izayoi/